

## 足立区都市農業公園「古民家はっけん！ワークシート」解説

### ◎古民家について

足立区都市農業公園の古民家は「和井田家」という家の母屋で、足立の農家の家のモデルとして足立区指定有形民俗文化財に指定されています。元々は花畑地域にあり、公園へ移築してきました。1855年の江戸時代には家が建っていたと言われています。詳しくは「古民家パンフレット」を御覧ください。

### ◎古民家はっけん！ワークシートについて

クイズを解きながら「古民家」「古民家展示(都市農業交流館1階)」を見学することで、昔の暮らしについて楽しく学ぶことを目的に作成しました。旧和井田家住宅が使われていた時代の生活を想像してみましょう。小学校の社会科見学などにご活用ください。

### ◎古民家ワークシート回答と解説

Q1.「たたみ」が使われている部屋はいくつ？

答え:③3つ

解説:家の中には4つの部屋がありますが、そのうちの3つが畳の部屋、1つが板の部屋です。日常で一番使われていたのは板の部屋でした。畳の部屋にはそれぞれ名前がついており、ザシキ、オク、ハヤとなっています。冠婚葬祭時にはザシキとオクの障子を外し、2部屋を使って行っていました。

Q2.箱火鉢の使い方は？

答え:①暖をとる ③お湯を沸かす

解説:畳の部屋でよく使われていた火鉢です。手を温めるほか、その熱でお湯を沸かす事もしていました。

Q3.土間の一番奥にあるこれを何という？(写真参照)

答え:①かまど

解説:かまどは現在の台所の中でコンロに該当する場所です。薪を燃料として火を燃やしていました。かまど上方には煙集めの囲いと煙出し窓がついています。

Q4.コメビツでは何を保管していた？

答え:②米俵にいれた米

解説:土間にあるコメビツは米などの穀物を保管する収納スペースとして使われていました。一方、野菜や漬物、調味料など高温で傷んでしまう食材は、夏場でも比較的湿度が低い床下に保管をしていました。

Q5.古民家の左側にあるのは何の植物の林？

答え:②竹

解説:竹は中が空洞になっており、丈夫でかつ加工がしやすい特徴を持っています。そのため竹かごなどの生活の道具にも使われていました。竹は古民家の屋根の骨組みや長屋門側の壁、屋根の棟づくり、いろりの自在鉤を吊るす部分など、古民家のさまざまなところに使われています。

Q6.屋根に使われている素材は何？

答え:①植物

解説:都市農業公園の古民家の屋根は「茅葺」でできています。茅葺の「カヤ」とは水辺に生えるアシやオギなどのイネ科の仲間の総称です。足立区を流れる荒川の河川敷にもたくさん生えており、昔の北千住付近には屋根の材料とするためのカヤを採取する場所もあったそうです。

Q7.木の柱は何の上立っている？

答え:②石のブロック

解説:「石場建て」「玉石基礎」と言われる伝統的な建築方法です。大きな石を地面に埋め、その上に柱が乗っています。柱を地面と接触させず、床下に空気を通すことで木材の腐食などを防いでいます。地震が来たらコロリと落ちてしまいそうと不安を感じる見た目ですが、幾度の地震にも耐え今日まで建っていることが、伝統工法が優れていることの証明です。

Q8.古民家の広い庭ではどんなことをしていたと思う？想像して書いてみよう。

自由回答

解説:農家の前庭ということで、脱穀や精米などといった広い場所が必要な農作業が行われていたと想像できます。他にも子供たちの遊び場所、果樹が多いので果物を採る場所にもなっていたでしょう。移築前の実際の和井田家では、前庭で盆栽や庭木栽培など園芸に力を注いでいたようです。